

嵯峨大念佛狂言に伝わる古面 京の大念佛狂言を 彩る面



嵯峨大念佛狂言 古面の実像を探る

10月25日(土) 13:30 ~ 16:00
13:00 開場

入場無料・定員100名

佛教大学宗教文化ミュージアム

〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26

能面系 女面 「深井」

桃山時代の優秀な面打であった喜兵衛の刻銘を持つ。
清凉寺を舞台とする能『百萬』にも使われる面。

主催：嵯峨大念佛狂言保存会 後援：公益財団法人京都市文化観光資源保護財団
協力：佛教大学宗教文化ミュージアム、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

お問合せは

嵯峨大念佛狂言保存会

〒616-8447 京都市右京区嵯峨釈迦堂藤ノ木町 46
清凉寺 (嵯峨釈迦堂)

080-1414-4864

保存会 事務局長 加納まで

☎ www.sagakyogen.info

✉ vtmi19509@leto.eonet.ne.jp



嵯峨大念佛狂言 古面の実像を探る

—— 当日プログラム ——

基調講演

嵯峨大念佛狂言の仮面群とその形成

大河内 智之 (奈良大学文学部文化財学科教授)
Okouchi Tomoyuki

専門は日本美術史、日本彫刻史。博士(文学)。元和歌山県立博物館主任学芸員。仏像・神像・仮面を通じて地域史を読み解く研究を進める。仏像公開や展覧会情報を紹介するウェブサイト「観仏三昧」(<http://www.kanbutuzanmai.com/>)を運営。



報告

「三光飛出」起源考

報告者

藤原 千沙 (面打)
Fujiwara Chisa

嵯峨美術短期大学専攻科(古画模写)修了後、文化財保存修復に従事。2003年面打 見市泰男氏に師事。2016年独立。現在、能面の制作・修復のほか、文化財修復等に従事。「能面考—新作能(オセロ)の能面」(泉紀子編「新作能オセロ」2019年 和泉書院)等を執筆。



報告

嵯峨大念佛狂言古面の調査と記録

報告者

東城 義則 (佛教大学宗教文化ミュージアム学芸員)
Tojo Yoshinori

1983年生まれ。総合研究大学院大学博士後期課程満期退学。(一財)奈良の鹿愛護会研究員を経て現職。専門は民俗学。協同組合、財団、ボランティア団体など非営利組織の活動現場に携わりながら、その場につどう人びとのほたるき方や生き方を探究している。



パネルディスカッション

嵯峨大念佛狂言 古面の実像を探る

パネリスト

大河内 智之
藤原 千沙
東城 義則
加納 敬二 (嵯峨大念佛狂言保存会 事務局長)
Kano Keiji

1951年に京都市中京区に生まれる。1976年京都市埋蔵文化財研究所に入所。京都市内の埋蔵文化財の発掘調査・研究に40年間従事してきた。1988年嵯峨大念佛狂言保存会に入会する。2008年京都市芸功労賞を受賞。舞台では主に鉦・太鼓の囃方として、保存会では事務局長を担当し嵯峨大念佛狂言の保存・継承に尽力している。



コーディネーター

芳野 明 (嵯峨美術大学芸術学部造形学科教授)
Yoshino Akira

1962年茨城県生まれ。東北大学大学院文学研究科博士課程前期修了。現在、嵯峨美術大学教授、嵯峨大念佛狂言保存会役員。専門はイタリア美術史。2011年より嵯峨大念佛狂言保存会に参加。



展示

嵯峨大念佛狂言に伝わる古面

佛教大学宗教文化ミュージアム ホワイエにて展示

佛教大学宗教文化ミュージアム

〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町 5-26 ☎ (075) 873-3115

アクセス

市バス

- ・59号系統(一部) 「広沢池・佛教大学広沢校前」下車すぐ
- ・10・26・59号系統 「山越」下車 西へ徒歩13分
- ・11・85・91号系統 「広沢御所ノ内町」下車 北へ徒歩8分
- ・93・特93号系統

嵯峨狂言の 主要な古面



能面系 鬼神面 「三光飛出」
蜘蛛などの鬼の役柄に使用される。



狂言面系 精霊面 「伯蔵主」
かつてあった演目「釣狐」に使われていたとされるが、現在は使用される演目はない。嵯峨大念佛狂言の古面では最古とされる「享禄二年」の銘を持つ。



独白面 「大念佛面」
源頼光などの役柄に使用される。



能面系 鬼神面 「大癡見」
渡辺綱などの役柄に使用される。



能面系 鬼神面 「天神」
平井保昌などの役柄に使用される。



能面系 男面 「弾丸」
釈迦の役柄に使用される。



独白面 「大念佛面」
旦那などの役柄に使用される。



独白面 「大念佛面」
供などの役柄に使用される。

無言劇を特徴とする嵯峨大念佛狂言(指定名は嵯峨大念佛狂言)にとって最も重要なものが仮面である。大念佛狂言としての仮面劇は、芸術化した能楽とは別の道を歩んできたが、仮面は単なる仮装道具としてではなく、その登場人物の役柄やセリフの代用となる表現手段であり、無言劇にとっては不可欠の転換装置である。今回はその面に焦点をあて、本年の6月から古面の本格的な調査に取り組んできた。その成果を生かすため、シンポジウムや講演会、面の展示や市内巡回写真パネル展を企画した。嵯峨大念佛狂言保存会は中断という負の歴史の後に結成され、この芸能を引き継ぎ、今年で50年の節目となる。平成30年(2018)狂言堂大修理以降は狂言堂を拠点に毎年、課題を設け事業に取り組んできた。今年度は室町時代以降に制作されたと思われる48点の古面を対象に、専門家や面打の方々からの見解や意見を交え、これまで推定されていた作者や制作年代についても再検討し古面の実像を探る。

京の大念佛狂言を彩る面

国指定重要無形民俗文化財 嵯峨大念佛狂言

五台山清涼寺(嵯峨釈迦堂)の境内にある狂言堂で行われる大念佛狂言である。壬生寺、引接寺(千本あんま堂)と並び、京都の三大大念佛狂言として知られる。弘安2年(1799)円覚上人によって始められた清涼寺の大念佛会に由来するとされている。保存会が所蔵する古面に享禄2年(1529)の墨書があることから、室町時代には能面を使用した狂言が行われていたと思われる。昭和38年(1963)に後継者不足などで中断されているが昭和50年(1975)10月に嵯峨大念佛狂言保存会が結成された後復活し、昭和61年(1986)に国の重要無形民俗文化財に指定された。壬生狂言同様、無言の仮面劇であり狂言の方のほか囃方と後見が舞台に座る。演目には能楽系の「カタモン」と狂言仕立の「ヤワラカモン」に大きく分かれる。公演は毎年3月15日清涼寺お松明式での奉納公演、4月初旬の土日の3日間からなる春季公演、円覚上人命日の10月26日に近い日曜日に行われる秋季公演を中心に、狂言堂で公開している。



定期公演の様子

事業予告

11月22日(土) 13:00~16:00

入場無料・定員400名

京都学・歴彩館 大ホール

講演
「仮面劇としての大念佛狂言の魅力」

八木 透 (佛教大学教授・京都市民俗学会会長)

実演
嵯峨大念佛狂言 『釈迦如来』

